久木田学園看護専門学校 令和6年度 事業実績報告

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

1. 令和6年度の学校の取り組み

1) 教育内容について

- (1) 令和6年度は新カリキュラム入学生が3年次になる年度であり、各領域の臨地実習の学習内容や評価方法等が大幅に変更になった。
- (2) すべての臨地実習評価はルーブリック評価表を用い、実習記録に関しても実習用ポートフォリオを使用し、実習科目により1日の実習時間も多岐に渡った。
- (3) COVID19やインフルエンザ等感染症の発症者は一年を通して存在し、感染症対策は緩和できなかった。マスク着用、発熱や風邪症状のある学生の実習停止、解熱や感染症検査陰性であっても2日間は自宅待機で症状が全て消失することを確認する等、実習施設の対応に合わせ、柔軟に対応した。その結果、出席時間数不足になった学生や実習停止になった学生への追実習や補充実習を計画し配慮した。
- (4) 新カリ用看護技術経験録に基づき、主体的に看護技術の演習や臨地実習での取り組みを行い一定の水準に到達できるよう経験を促したが、なかなか主体的な演習の取り組みは難しかった。また、3週間対象を受け持ち、看護を展開する実習が旧カリキュラムと比較して減少しているため看護技術の到達度も低く、最終の「看護の統合と実践実習」において看護技術の未熟さが出ていた。
- (5) 令和6年度も継続して学生の学修を可視化する目的で、GPA制度を継続し活用し、学生の学習到達度を数字で評価する目的で使用している。1年間の学修状況については、GPAを用いて客観的評価を各学年で行った。

2) 学習環境の整備について

学習に影響のある環境整備については引き続き実施したが、新たな環境整備の計画は立案されなかった。新規図書購入については、臨地実習の際に活用する図書、及び看護師国家試験対策に必要な図書については新規購入をしたが、学内で使用するモデル等の備品購入は既存のもので賄い、教育に支障がなかったため、計画しなかった。

2. 閉校に伴う教職員の体制について

1) 令和6年度在校生の状況

1年生が入学しない新年度を迎え、2年生29名・3年生22名の在校生への教育計画を立案し、教育に取り組んだ。

- 2) 令和6年度3名の専任教員が人員削減され（うち1名は育児休暇取得後退職）、教務事務の補充も引き続きなされなかった。看護師養成所のガイドラインでは専任教員8名以上、及び教務事務の配置となっているが、閉校に向けての人員削減であり、やむをえず未充足の人員のまま新年度をスタートした。それぞれの学年担当教員を2名ずつ配置し、実習調整者及び教務主任は副学校長が兼務する形で業務分掌を変更した。

- 3) 学校の事業縮小に沿って、経費削減・専任教員の研修計画も引き続き計画されない状況が継続され

た。

3. 専任教員の質の向上について

- 1) 令和6年度は6名の専任教員で臨地実習指導と在校生の授業にあたり多忙を極めたため、研究授業は計画できなかった。
- 2) 新カリキュラム入学生の3年次臨地実習が開始され、すべての実習科目でルーブリック評価を活用し実習を行った。また、倫理教育も強化するために2年次の「看護の思考過程実習」に引き続き、様々な実習科目で倫理カンファレンスを実施した。昨年度の課題であった倫理カンファレンスのファシリテータとしての教員の指導力の差は、今年度も課題として残った。実習のまとめの発表会の場においても特に2年次の実習のまとめについて教員の指導力の差が顕著に現れた。
- 3) 上記のように専任教員の指導力の格差を縮めるための研修会等の計画がない状況で、モチベーションも上げることは難しく、教育方法の改善については格差が広がる形となった。
- 4) 看護教員養成講習会未受講の教員については、看護教員と同等の資格取得のため通信教育で大学において教育に関する4単位取得及び大学卒業の為に単位取得を目指して計画的に学習に取り組んでもらい、令和6年度前期に全ての教員が専任教員の資格を取得した。
- 5) 次年度は6名の専任教員がほとんど臨地実習指導の担当となることが予測される。全教職員で協力し、在校生の全員の卒業を目指し教育にあたる。

4. 看護師国家試験対策の実施

- 1) 過去問題を中心に早期から学習習慣をつけるよう指導したが、模擬試験等の結果になかなか結びつかず8月までの必修対策も8割に届く学生が少なかった。また、実習の中で過去問題に必ず触れ、知識の定着を目指したが、実習単位を取ることに必死で国試対策まで同時進行できる学生はほとんどいなかった。また、実習担当教員にも協力を依頼していたが、協力できた教員は少なく、特に後半の実習では教員自身の意識が薄れて実行できなかった。
- 2) 国家試験強化対策について
11月より強化対策を実施した。国試対策委員会を中心に11月は必修対策を主に行い、8割を超える目標に徐々に近づくことができた。この頃より自己で集中して学習に取り組めない学生を教務室や会議室で学習してもらい、教員の目が届く場所で集中して取り組めるよう指導を強化した。
- 3) 一般・状況設定問題の強化
昨年度の反省で、必修対策が進まず、一般・状況設定問題対策に着手することや成績低迷者への働きかけが不足したことが挙げられたため、今年度は早期から模擬試験の振り返りや国試対策の知識定着のための自己学習の方法の指導を強化した。教員の指導に対して改善し努力した学生は、成績が向上してきたため、模擬試験業者の成績分析をもとに繰り返し指導し、学習スタイルの改善を図った。
- 4) 予備校の看護師国家試験対策講座にも積極的に参加するよう促し、休日の学習時間の確保、冬季休暇中の学習時間の確保に講座受講を活用した。

【看護師国家試験合格状況】

	本校合格率(新卒者のみ)	全国平均(新卒者)
令和 4 年度 合格率	92.0%	95.5%
令和 5 年度 合格率	59.1%	93.2%
令和 6 年度 合格率	95.0%	95.9%

- 3) 今後の対策として、成績低迷者の学習支援を早期から実施していく。帰校日には必ず必修対策を行い、8月を目安に合格圏内を目指す、また国試対策の年間計画に沿って早期から学習方法の確認や国試対策への取り組みの確認をしていく必要がある。
- 4) 国家試験全員合格の目標達成のための計画を立て、3年担当教員を中心に全教員で学習内容の確認と指導を強化し、全員合格を目指す。

5. 就職対策

- 1) 県内就職希望者が大半であり、令和6年度県外就職希望者は卒業生20名中3名だった。希望調査を年度初めに行い、その後学年担当教員を中心に就職相談を行った。看護師国家試験受験まで就職活動を行わず、自己採点結果及び看護師国家試験合格発表を待ち、就職先を決定した学生もいたが、最終的に全員就職先が決定した。

2) 20名の卒業生の進路

看護師として鹿児島県内就職者	16名
看護師資格取得・助産学科進学者	0名
看護師として鹿児島県外就職者	3名
准看護師として鹿児島県内就職者	1名
就職先未定	0名

6. 学生募集活動

- 1) 募集停止につき実施せず。
- 2) 広報活動は実施せず。ホームページのリニューアルやInstagramの更新なく経過している。

7. ボランティア活動

- 1) COVID19の感染対策により、久木田学園レオクラブの活動は看護学校の学生は参加できず、鹿児島鍼灸専門学校のみで実施した。その中で感染症対策の緩和が見込まれ、臨地実習もすべて終了した令和7年3月15日に旧吉田校舎周辺にて清掃活動を計画。ボランティア活動実施予定であったが、雨天の為中止となった。
老人福祉施設等のボランティアの依頼は無かった。